

第4回 常滑東小学校及び常滑西小学校の通学区域見直し説明会  
(常滑西小保護者対象)

日 時	平成25年6月7日(金) 19:00~20:15
場 所	常滑西小学校 視聴覚室
職 員	加藤教育長、榊原部長、澤田課長、小竹指導主事、山本指導主事、 竹内課長補佐、稲葉主事、河添主事

○参加者： 男性 6名  
女性 7名  
合計 13名

○常東小保護者 : 1名  
常西小保護者 : 12名

○北条地区 : 5名  
保示地区 : 2名  
市場地区 : 2名  
山方地区 : 3名  
瀬木地区 : 0名  
奥条地区 : 0名  
その他 : 1名

○1年生 : 0名  
2年生 : 2名  
3年生 : 5名  
4年生 : 1名  
5年生 : 4名  
6年生 : 5名  
該当無 : 2名(園児等)

○本日の流れについて（小竹指導主事より）

○あいさつ（加藤教育長より）

本日はご多用の中をお集まりいただき誠にありがとうございます。日頃は、学校教育にご理解とご協力をいただき心より感謝申し上げます。

はじめに、常滑西小学校と常滑東小学校の学区の見直しの問題につきまして、児童、保護者や地域の方々にご心配やご不安をおかけしておりますこと、まずもって心よりお詫び申し上げます。

さて、今後、私はこのように進めてまいりたいと考えております。まず、今は常滑西小学校と常滑東小学校に分かれています。もともとは同じ学校であり、中学校へ進めばみんなは同じ常滑中学校に行くことを話したいと思っております。

そして、お祭りに象徴されるように旧常（きゅうとこ）は一つであり、旧常の方々が見守っていてくれることを子どもたちに知ってもらいます。そのうえで、常滑東小学校からくる新しいお友達と一緒に、新しい常滑西小学校を作ってもらえるようにお願いします。

また、児童会等を利用して、そのことをテーマにして子どもたち自身にも考えて取り組んでもらいます。さらには、各行事等を利用し、子ども同士の交流を進めていただきます。

来年度になれば、それぞれの学校で出発式が行われ、新たな学校づくりを始めます。児童会にも、新しい学校づくりをテーマに取り組んでいくようにもっていきます。教員人事面では、常滑東小学校の子どもを知っている常滑東小学校の先生方にある程度常滑西小学校に移ってもらいます。

そして、年度当初の学年学級懇談会や家庭訪問等を利用して、家庭の様子を聞きながら進めます。5月ごろには、教育相談等の時間を活用し、子どもたちから様子を聞きます。スクールカウンセラーに助言をいただいたり、必要な子どもには、スクールカウンセラーとの面談の時間を取ります。

教師の観察だけでは気づけない部分があります。それを補うために、QUテストの導入も考えております。これは、不登校の可能性の高い子ども、いじめを受けている可能性の高い子ども、学校生活に意欲が低下している子どもを発見し、早期対応に繋げることができると言われております。

学校は、出会いがあり、別れがあるところ。そうした中で、子どもたちが生きてゆ

く力を身につけてゆくところです。学校はそうした機会を通して、子どもたちを育てていきます。

学区の見直しにより、子どもたちに親しい友達と別れるという悲しい体験を強いるかもしれません。また、大勢の子どもが転入をしてきたために、不安になることもあるかもしれません。しかし、私は、この体験から子どもたちに大事なことを学ばせたいと思います。友達はなくてはならない存在、仲間のありがたさ、だからこそ、絆の大切、そうしたことを子どもたちが学ぶ教育の場にしたいと思います。

常滑地区は昭和55年に常滑小学校を常滑西小学校と常滑東小学校に分かれました。当時の子どもたちは、保護者の方や地域の方々の協力や見守りの中で乗り切ってきました。また、常滑以外の地区でも、統廃合や通学区域の見直しは行われておりますが、子どもたちは大人たちが思っているよりもたくましく乗り切っているということを知っております。こうした機会は、デメリットもありますがメリットもあります。

今回も、皆様方のご協力をいただき、どちらの子どもたちにとって価値ある機会としたいと思います。是非、今一度、子どもたちのために皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

- 通学区域の見直しについて（澤田課長より）  
（パワーポイント、配布資料に沿って説明。別紙資料参照）

Q&A（榊原部長、教育長が回答） <（ ）は子どもの学年 >

男性1 (常東小6、 4, 2年)	Q1：配布資料7ページについて。 5年後以降は常東小と常西小で更に差が開くのか？	A1：必ずしもこうなるとは限らないが、飛香台の増加の見込みを考えて、おそらく5年後には落ち着くのではという前提で考えている。
男性1	Q2：通学路で危険性の高い箇所の対策は？	A2：一木橋の下の通学路を通る児童は、現在は約100人。校区見直し後になると200人になる。物理的に歩道を広げたりガードレールを設置したりすることは困難と考える。 大学教授と相談し、実際に現場を見ていただき、アドバイスを受けながらできることをやらせていただきたい。 指導主事が大学教授に一度相談に行き、写真等を見ていただいた。例えば、ポールを立てる等の対策があると考えている。
男性2 (常西小3年)	Q3：通学団について。常西小は個別登校だが、これが常東小の保護者に誤解されている気がする。 少しでも不安を取り除いていくことが必要と思われるが、どのように常東小の保護者に伝えているのか。	A3：常西小は確かに通学団という名称ではないが、誘い合いという形で登校している。 どうしても通学団をやりたいということであれば、校長に相談していただければ実現はできると説明している。
男性2	Q4：通学路の対策はどれくらい進んでいるか。	A4：特に一木橋と大阪屋の所を心配している。しかし、まだ通学路も決まっていないから具体的な話は進んでいない。 大阪屋の所では北側に線を引いてあるから、これを南側に寄せて線を引いたり、グリーンのラインを引いたりすることなどを検討しているが、保護者と学校とで相談していただくことがより良いと思う。
男性2	Q5：通学路交通安全対策連絡協議会は、資料に保護者が書かれていないが、この協議会に関わっていただけるか？	A5：協議会では、最も危険と思われる箇所を専門チームで詳しく検討する。資料には記載がないが、保護者もこの協議会のメンバーに入っている。
男性3 (常西小6、 3年)	Q6：両校の交流とは具体的にどのようなものか？	A6：一つにサマースクールを考えている。また、PTAの交流や教員の交流など。なるべく両校の文化を取り入れられることができればと思う。
男性3	Q7：サマースクールの具体的な交流内容は？	A7：(常西小校長より) 日程としては、同じときに同じところを考えている。常東小と常西

		<p>小の5年生の先生同士で話し合っている。</p> <p>まず、初日にしっかり顔見知りになろうということを考えている。午前に自己紹介して、午後に海岸で砂の造形を、夜はキャンプファイヤーを一緒にやろうと考えています。2日目は、朝に別れの会を開き、ひとまず両校の交流を閉じて、それぞれの学校の都合で動いていきたいと考えている。</p> <p>常西小は海の学習でビーチランドへ、常東小はハイキングを考えている。</p>
男性4 (常西小5年)	Q8：常西小の大規模改修に伴う備品は新規で用意するのか？	A8：できるだけ新しいものを用意したいと考えている。必ず、すべてとは言えないので、中には常東小のものを持ってくることもあると思う。
男性4	Q9：6年生が卒業した後の妹弟は常西小へ移ることになるのか。	A9：卒業後は移っていただく予定である。どうしても移れない事情があれば個別に相談してほしい。
女性1 (常西小3年)	Q10：特別支援教室は常西小に2クラスあるが、人数が増えた場合はどうなるか。	A10：特別支援学級は8人で1クラスであるが、まだ人数が正確に分かっていない。
男性5	Q11：津波に備え、4階に避難するよりも屋上へ避難する方針に変えることはできないか？	<p>A11：基本的には4階で大丈夫と思う。</p> <p>せっかく屋上に上がれるのなら最初からその方が良いという意見もあると思うが、天候等の問題もあり、必ず屋上に上がるのがいいかどうか、考え方がいろいろあると思う。</p> <p>本来ならば高台に避難するのが最も良いと考える。なぜ高台を一番にしていないかと言うと、行くまでの道を確保できるかどうか不安なためである</p>
男性5	Q12：屋上への避難経路を増やせばよいのでは？	A12：構造的に難しい。
男性5	Q13：初めから屋上へ避難することは検討していないのか？	A13：いったんは4階に避難するが、状況を見て、混乱のないように屋上に上がるという方法はあると思う。
男性5	Q14：市はそれで完全に安全が保障できるという認識なのか？	<p>A14：完全とは言い切れない。</p> <p>道路等の状況が悪くなく高台へ逃げるという選択肢、4階に逃げる選択肢、屋上へ逃げる</p>

		<p>選択肢、この3つの選択肢を持つことで安全性を確保できると考えている。</p> <p>絶対とは言えないが、実行可能な選択肢を用意していくことが安全を確保する方法と考える。</p>
男性5	<p>Q15：瀬木地区は目の前に常東小があるので、常西小へ移っていただくのはいかがなものか、とのことだが、奥条地区も目の前に学校がある人もいる。違いはないのでは？</p>	<p>A15：それは承知している。その前に、区をなるべく分割しないという前提がある。</p> <p>瀬木地区も常西小へとなると、瀬木地区も更に分割することになる。</p> <p>常東小からコンパスで引き、同等の距離で線引きすると奥条も分割することになる。距離だけでなく、行政区をなるべく分けないようにしたい。</p> <p>瀬木地区にある学校に通う瀬木地区の子どもを、区が同じにもかかわらず常西小へ通っていただくのはいかがなものかと考えた。</p> <p>いくら目の前でも、奥条なので常西小へいっていただくということで線を引いた。</p>
男性6 (常西小3年)	<p>Q16：両校の交流も必要と思うが、常西小の中で、常東小から新しく移ってきた子どもと元々の常西小の子どもとの交流の機会も増やすべきでは？</p> <p>過去の学校の子どもの交流よりも、常西小の中で仲良くなることも重要と思う。</p>	<p>A16：新しい常西小をみんなで作るという気持ちを持ってほしい。</p> <p>児童会等でも新生常西小を作ることをテーマにしてもらい、子どもたち自身に考えてほしい。いずれ同じ中学校に通うのだから、仲間だと思ってほしい。</p> <p>例えば、社会科の授業の中で、身近な地域について学習する。常西小の子どもは常西小校区のことを学び、常東小は常東小校区のことを勉強していく。</p> <p>しかし、自分たちの住む地域なのですでに知っていることも多い。</p> <p>そこで、社会科の時間の中で、自分はこんなことを勉強した、常東小校区にはこんなよい所がある、常西小校区にもこんなよい所があることを両校の子どもが発表し合う機会があれば、子どもにとってももっと興味を持ってもらえるし、自慢ができると思う。こんな交流を常時やっていくことが大事だと考えている。</p>